

改造EVと大手メーカーの市販EVの比較

	YARCの改造EV (入門モデル)	三菱自動車 アイ・ミーブ	日産自動車 リーフ
最高出力	15キロワット	47キロワット	80キロワット
電池	鉛蓄電池	リチウムイオン電池	リチウムイオン電池
最高時速	60キロワット	130キロワット	145キロワット
走行距離	40キロワット	160キロワット	200キロワット
乗車定員	2人	4人	5人
価格	120万~150万円	398万円	376万円
補助金	対象外	最大114万円	最大78万円
発売時期	2011年春メド	2009年7月	2010年12月

(注)数字は概数、走行距離の燃費基準はアイ・ミーブが10・15モード、リーフはJC08モード

ベース車は中古の軽自動車や軽トラックなどを想定。エンジンや燃料タンクなどを取り外し、電動モーターや蓄電池、制御電源、スロットル、コイルバスターなどを取り付ける。改造期間は3日間程度。受注費用は1台120万~150万円程度を軸に検討する。

改造に必要な部品類は改造EV関連事業を手がけるEvhonda(新潟県長岡市、本田昇社長)

年間1000枚の販売を目指す。

両グループともに、JA新ふくしま(福島市)などの養蚕農家と、生糸

3年後、100台受注目指す

自動車解体リサイクル業の山形オートリサイクルセンター(YARC)、山形県酒田市、伊藤雄 郎社長は、市販ガソリンエンジン車を電気自動車(EV)に改造する事業に乗り出す。早ければ来春にも参入、3年後をメドに年1000台の受注を見込む。EV時代到来をにらみ全国各地で改造を手掛ける業者が相次いでいるが、東北企業として事業化第1号を目指す。



本社工場の一角で改造EVの製造に取り組む(山形県酒田市)

オートリサイクル 山形 形リサ イク ガソリン車、EVに改造 来春にも参入 市販車の半額で

「純国産」真綿布団を販売

西川産業や福島農装 福島産の繭使い

年間1000枚の販売を目指す。

両グループともに、JA新ふくしま(福島市)などの養蚕農家と、生糸



冬季集客で連携 青森で組織発足 地吹雪体験など

防寒着(角巻かまくら)写真にちなんで「あおもり角巻ネットワーク」と命名した。津軽地吹雪会(五所川原市)の角田周代表が呼び掛け、下北を含め青森県全域から10以上の観光事業者や団体が参加する。

来年1月23日には縄文時代の三内丸山遺跡(青森市)で、約100人が角巻を羽織った姿での撮影会を計画している。五所川原の地吹雪ツアーは台湾からも参加者がある。今後は八甲田山

いなど性能は見劣りするが、最大の利点は大幅に割安なこと。三菱自動車「アイ・ミーブ」や日産自動車「リーフ」などは1台400万円弱で、補助金を差し引いても300万円近い。近距離の通勤や病院通い、小規模商店の集配送などの用途に限定すれば「格安の改造EVに対する潜在需要は根強い」と見ている。

ます来年1月をメドにEvhondaの指導・助言を受け試作車を製作。車検を通してナンバを取得、公道を走らせるなどノウハウを蓄積した上で事業化の具体的時期や価格などを詰める。

全国ではベンチャー企業や自動車解体業者、整備士が中心に

東北経済産業局が8日発表した東北6県の大型小売店販売額動向(速報)によると、10月の既存店販売額は0・9%増と、2年7カ月ぶりに前年同月を上回った。百貨店の売り上げも伸びた。スー

大型店販売 2年7カ月ぶり増 10月、百貨店の衣料品好調

単価の高い秋冬物の衣料品が好調だった。業態別では百貨店が1・7%増で2年7カ月ぶりにプラスになった。衣料品のほか、飲食料品の売り上げも伸びた。スー

備業者らが続々と改造EV事業に参入。ゼロスポーン(岐阜県各務原市)が日本郵政グループの郵便事業会社から集配車両用に1000台受注して話題となった。東北でも一部業者が強い関心を寄せているが、大半は試作車や自社車両として使う段階にとどまっている。

YARCは1985年設立で、2010年8月期の売上高は約4億7000万円。年間約3600台の廃車を解体、中古部品販売や再資源化事業を展開している。解体リサイクル業で培った経験や人材が一定程度生かされると判断、改造EVを新たな事業の柱に育てる。

東北経済産業局が発表した東北の鉱工業生産値、季節調整

10月鉱工業生産値は94・8%増

10月鉱工業生産値は94・8%増

10月鉱工業生産値は94・8%増

10月鉱工業生産値は94・8%増